

ベルグアース株式会社

2011年10月30日

市場	大証 (JQ)	業績 (百万円)	2009/10	2010/10	2011/7 (3Q)
上場承認日	2011/ 10/ 21	売上高	2,686	2,982	2,196
上場予定日	2011/ 11/ 29	営業利益	122	175	78
主幹事証券	野村證券	経常利益	117	180	92
監査法人	有限責任監査法人トーマツ	当期利益	79	82	50
URL	http://www.bergearth.co.jp/	総資産	2,005	2,084	2,077
証券コード	1383	純資産	405	488	539

● 事業内容 (特に記載しない限り、数値は2010/10期)

- ・同社は、野菜苗、特に果菜類(キュウリ・トマト・ナスのように果実の利用を目的とする野菜の総称)の接ぎ木苗の生産・販売を行っている。接ぎ木苗の生産は、接ぎ木しない苗と比べて高いレベルの技術を必要とし、多額の設備投資がかかるものの、ビニールハウス等での施設栽培による野菜の周年生産を可能にでき、また、土壌内の病原体・害虫の影響を除外できることから、近年はニーズが高まっている。
- ・事業は、①野菜苗生産販売事業、②流通事業(コンビニ運営等)の二つがあるが、①28億円、②1億円と、①が売上のほとんどを占めている。また、顧客は、野菜を生産している全国の農家及び農業法人であり、販路は、全国各地の野菜産地やホームセンターなどとなっている。
- ・①の製品は、一般的なポット苗のほか、アースストレート苗(根本を不織布で包んでいる苗)、ヌードメイク苗(断根接ぎ木作業直後の半製品状態の苗)、e苗シリーズ(閉鎖型環境で、光量、水分量、温度、二酸化炭素濃度を人工的に制御して育苗した苗)等のオリジナル製品がある。
- ・作物別では、トマト(全体の41.1%)、キュウリ(同34.2%)、ナス(同12.0%)などが主たるものであり、そのほかスイカ、メロン、ピーマン類等も製作している。また地域別では、関東(34.7%)、中部・甲信越・北陸(18.1%)を中心に、日本全国に広く販売しており、全ての地域で売上が前年対比で増加している。
- ・農業全体のマーケットは、高齢化等により長期減少傾向にあるものの、野菜類は直近6年間で第1位の産出額(2兆円超)となっている。果菜類の栽培においては、高齢化を理由に苗を自家生産する農家が減少してきており、また連作障害を回避することからも、苗を外部購入して接ぎ木栽培するケースが増加している。
- ・同社は、日本全国に委託生産先を展開した分業体制をとることで、年間を通じた安定受注・生産を可能としている(委託生産割合73.3%)。また最近では、自社農場の拡大も進めており、本社(香川県)、長野、岩手に生産拠点を展開している。

● 財務諸表より (特に記載しない限り、数値は2010/10期)

- ・総資産は20億円。主に、現預金3億円、営業債権6億円、たな卸資産0.8億円、有形固定資産8億円など。債権については、日立キャピタル㈱の代金決済システムを導入している。これにより、農家に配慮した収穫期一括支払が可能になるうえ、与信リスクの回避と回収業務効率化を図っている。有形固定資産は、自社生産拠点の設備など。
- ・負債は、16億円弱。営業債務4億円、有利子負債9億円など。総資産の半分近くが有利子負債となっているが、今回の調達資金も有利子負債の返済には充当しないため、負債が高い状態はしばらく継続しそうだ。
- ・粗利率は24.2%、営業利益率は5.9%。2009/10期は、それぞれ22.5%、4.6%であり、若干ずつだが双方とも改善している。営業外損益項目には、特に目立つものはない。
- ・事業の特性上、例年第1四半期(11月～1月)は、売上が低下する傾向にある。2010/10期も売上高は3.5億円(年間売上の12.0%)と低くなっており、営業利益も△0.7とマイナスであった。今後も四半期業績を確認の上では、留意が必要。

● その他 (リスク情報、株式公開情報等より)

- ・調達予定額は2億円。調達資金は、全て野菜苗生産販売事業に係る設備資金に充当予定。
- ・同社の前身となる(有)山口園芸(現在は株式会社化)は当初、農業生産法人として設立された。設立当初から上場を指向していたものの、農業生産法人は農地取得を認められる一方で、株式譲渡制限会社であることが求められるため、そのままでは上場は不可能であった。そこで、(有)山口園芸の事業の一部を譲り受ける形で、一般事業会社である同社を設立している。なお、農地法関連の法改正により、現在は一般事業会社が農地を借りることは可能である。
- ・(株)山口園芸は、現在も主要な委託生産先であり、金額ベースで全体の52.7%を委託している。委託比率は年々低下してはいるものの、現状では、まだ依存率が高い状況にある。なお(株)山口園芸は、同社経営陣により設立された会社ではあるが、株式は全て外部者に譲渡されているうえ、役職からも退いているため、現在は人的・資本的關係はない。
- ・役員構成は、取締役5名、監査役3名(全て社外)。代表取締役の妻が、No.2の専務取締役となっている。
- ・株主構成は、代表取締役が51.6%(親族含めると54.7%)と過半数を保有している。その他経営陣は、0.7%と非常に少ない。そのほかVCの比率が高く32.7%である。公募・売出後は、代表取締役一族33.0%、VC22.4%、浮動株34.4%となる見込。なお、新株予約権は発行されていない。

© (株)アカウンティング・アシスト(無断転載禁止) URL: www.accounting-assist.com E-mail: info@accounting-assist.com

※ご留意事項

本書は証券取引所のサイトにアップされた「上場申請のための有価証券報告書(Iの部)」など、一般的に公表された情報を基に、新規上場予定企業の概要をお伝えすることを目的として作成しております。内容の一部作成者の私見が含まれることがありますが、投資行動への指図や投資勧誘を目的としたものではありません。また本書の作成誤り・事実認識等により利用者に経済的損害が生じた場合も、これを補填する義務は一切存在しませんので、予めご了承ください。